

2022年度行動計画の実績報告について(2023年3月末)

【コンセプト】将来像を議論・明確化・共有

Vision Compass 2030から将来像と具体的な施策を作成し共有、一丸となり取り組む。

2023年3月末の進捗状況と評価及び次年度に向けた取り組み事項

評価は、○＝順調に進んでいる、△＝やや遅れている、×＝あまり進んでいない

中長期経営計画

2022年度行動計画項目

大項目	小項目	実施項目	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当 会議	主担当 部門	協力 部門	1Q	2Q	3Q	4Q	KPI指標	目標値	KPI 数値 3月末	進捗状況	評価	次年度に向けた取り組み事項	
1. 独自性・優位性ある 教育力の向上と 内部質保証	(1)時代と社会の要請に 応えるテクノロジスト 育成教育の質の向上	1) 教学マネジメントを促進する体制の確立	①教学マネジメント室と教務委員会との連携による教育の質向上に向けた取組みを実施 1)新しい制度の実行 ・進級制度、ルーブリック、IRデータの展開、学生面談情報の共有等 ・主専攻・副専攻制の詳細設計	横山	教学マ ネジメント室	教務委 員会 教務課		←	実行・検証・改善検討	→		必修科目 合格率	100%	93.3%	1)進級制度の見直しと改善案を提案、卒業研究等ルーブリック表を提案、IRデータを展開、学生面談情報の共有方法を提案、主専攻・副専攻制の詳細設計	○	・研究室配属の詳細設計 ・新カリキュラムの検証 ・卒業研究等のルーブリックの検証と改善	
		2) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの明確化・共有						←	詳細設計	→								
		3) AI、IoT等の新技術にも対応できる将来のテクノロジストを育成するためのカリキュラム改革	②教養教育センターのスタートアップ 1)教養科目の実施と検証 2)センター事業実施(外部連携・アントレプレナーシップ教育)の計画と実施	澤本	教養教育センター	センター + 教務課		←	教養科目実施・検証・改善検討・提案 事業計画	→				1)1Q～4Q教養科目の検証 2)1年Fゼミで自校教育の実施 特別講演会の実施 3)教養教育センターHPの充実 4)学外学会シンポへ講師派遣	○	1)教養科目の検証 2)1年Fゼミ外部講師の講義 Fゼミ・基礎ゼミのライティング講座 特別講演会の開催		
			③数理・データサイエンス・AIプログラムの計画					←	プログラム等作成	←	内容決定	→	←				シラバス作成	→
		4) 教学IRを活用した学修成果の可視化、アセスメント・ポリシーの明示と教育サポートシステムの充実	④内部質保証を具体化する取組み ・アセスメント・ポリシーの運用 ・FD活動(PBL型教育の強化) ・学修サポート体制の構築	横山	教学マ ネジメント室	教務委員会 教務課	FD・SD 推進委員会	←	計画	→		実施	→			各種アンケートの実施によるアセスメントの実施 FD活動:授業見学改善の検討 卒業研究のルーブリック適用に伴うアセスメントポリシーの見直し	○	・新カリキュラムの検証 ・卒業研究等のルーブリック検証 ・IRデータ(所見)を活用した修学指導の実施
		5) 魅力ある学科、コース、大学院等の展開	⑤-1-1情報メカトロニクス学科新カリキュラムの実施・検証・改善 1)進行中の新旧のカリキュラムを確実に実施する。 2)新学科の学生の志向を把握し、コースの在り方を検証する。 3)教員の担当可能分野を調査し、教員補充計画へ反映させる。 ⑤-1-2学科の魅力を向上させる取組み 1)オープンキャンパスの展示・案内を見直す。 2)卒業研究の一層の活性化を図る。 3)情報系の学生プロジェクトの立ち上げを促す。					原	学科会議	情報メカ 学科 教務課	広報係 +就職IS 係	←	教員の分野調査、現行補充計画の確認 展示室の改善	→				
				←	卒研システムの見直し・実行	→												・WEBサイト・SNS・メルマガの情報発信156件 (WEBサイト26件、Twitter50件、Facebook27件、Instagram11件、メルマガ42件) ・大会結果のポスター作成
			⑤-2-1建設学科新カリキュラムの実施・検証・改善 1)進行中の新旧のカリキュラムを確実に実施する。 2)新カリキュラムの効果を把握し、コースや科目の在り方を検証する。 3)教員の担当可能分野を調査し、教員補充計画へ反映させる。 ⑤-2-2学科の魅力を向上させる取組み 1)オープンキャンパスの活性化を図る。 2)広報と連携し研究や学生の取り組みなど情報発信を促進する。	田尻	学科会議	建設学科 教務課	広報係	←	教員の分野調査 オープンキャンパスの活性化	→	←	コース配属の分析 現行補充計画の確認	→	オープンキャンパスの参加者数	入試課の目標値 (参加者数) に準ずる	⑤-2-1新カリキュラムの実施・検証・改善 1)新旧カリキュラムの確実な実施(○) 2)新カリキュラム効果検証(△継続中) 3)教員の分野調査(△) ⑤-2-2学科の魅力向上 1)OC活性化(○) 2)広報と連携・発信の促進(○)	○	引き続き、継続して目標の達成に取り組む
								←	広報と連携した情報発信	→								
			⑤-3大学院活性化に向けた取組み 1)社会人向けコースの検討 2)アントレプレナーシップ教育の検討	横山	教学マ ネジメント室	大学院 教務課		←	検討実施	→						社会人向けコースの他大学調査 学内進学を推奨するための取組を実施 アントレプレナーシップ教育の現状確認と今後の対応について検討	○	・学内進学者を増やすための取組を実施 ・大学院改組の検討(成長分野対応の検討)
		6) 休退学者削減施策	⑥休退学者低減に向けた取組み 1)担任の定期的な面談の実施による、適時の退学希望者の特定および指導の強化 2)IRデータの分析に基づく、施策の立案実行					大塚	退学者 対策部 会	各学科 教務課	入試課	←	面談実施・対象特定・指導強化 データ分析・立案実行	→	←	総括 ☆ 4年間退学率 (除籍者含む)	10%台 維持	
			⑦入学前教育の計画、実施による早期教育と高大接続の強化	←	計画・高校との調整 外部教材契約	→	←					入学前教育実施の事前研修 入学前教育の実施	計画と高校との調整を実施 外部教材契約 入学前教育の事前研修 高校との連携協定の在り方を模索 入学前教育の実施	○	データ分析による高大連携実施 (入学前教育は教養教育センターが担当)			
	(2)充実した就職支援と 学生生活のサポート	1) 留学生、障がい者等、個別の対応強化及び支援制度の充実	①ふれあいルームと教職員の連携による支援強化 ・長期の休み明けなどにアンケート調査、悩みのある学生サポート	高橋	学生・留 学生委 員会	学生課		←	実施	→					悩みのある学生に対し、ふれあいルームのカウンセラー、教職員が連携し、サポートを行った。 また、GW明けにアンケート調査を行った。	○	悩みのある学生に対し、ふれあいルームのカウンセラー、教職員が連携し、サポートを行う。 また、長期の休み明けなどにアンケート調査を行い、悩みのある学生を把握し、サポートに努める。	
		②障害のある学生への支援体制の充実 ・ふれあいルームカウンセラー、教職員が連携						←	実施	→					障害のある学生に対しては、各学科の教員、カウンセラー、事務職員が連携し、個々の状況に合わせた対応を行った。	○	障害のある学生に対しては、各学科の教員、カウンセラー、事務職員が連携し、個々の状況に合わせた対応を行う。	
		③留学生の月1回の対面式在籍管理により、問題を早期に洗い出し実施 ・新年度のオリエンテーションなどで重要性を周知 ・対面できめ細かく接することで問題を早期に洗い出し						←	実施	→					月1度の在籍確認を行い、留学生の状況の把握に努めている。また、毎学期ごとにオリエンテーションを行うことで、留学生の意識の向上を図った。	○	月1度の在籍確認を行い、留学生の状況の把握に努める。 また、毎学期ごとにオリエンテーションを行うことで、留学生の意識の向上を図る。	
		④留学生の日本語能力向上に向けた新たな方法の検討・実施 ・日本語能力向上により就職にスムーズに結び付ける。						←	検討	→	←				実施	→	従来の日本語講座とは異なる外部の講座に取り組んでいるが、留学生の日本語に対する意識が低く、苦戦している。	△
		2) 経済支援制度の多様化による学生への支援の充実	⑤新たな修学支援制度の周知とコロナ禍に対応する独自奨学金制度の検討 ・日本学生支援機構奨学金の説明会2回/年(4月と10月)実施し、奨学金制度を周知する。 ・独自奨学金の募集について、より多くの学生の支援ができるよう2回実施する。	高橋	学生・留 学生委 員会	学生課		←	実施	→				新たな修学支援制度と日本学生支援機構の奨学金、独自奨学金の周知に努め、より多くの学生が活用できるよう努めた。	○	新たな修学支援制度と日本学生支援機構の奨学金、独自奨学金の周知に努め、より多くの学生が活用できるよう努める。		
			⑥奨学金情報のメールでの周知やホームページへの掲載や地方自治体・団体による奨学金情報を収集し、多くの情報提供を推進 ・日本学生支援機構奨学金、ものづくり大学独自奨学金等の情報の周知					←	実施	→				奨学金情報等は、メール、ホームページや学内掲示を用い、学生が情報に触れる機会を多くするなど、周知に努めた。	○	奨学金情報等は、メール、ホームページや学内掲示を用い、学生が情報に触れる機会を多くするなど、周知に努める。		

2022年度行動計画の実績報告について(2023年3月末)

【コンセプト】将来像を議論・明確化・共有
Vision Compass 2030から将来像と具体的な施策を作成し共有、一丸となり取り組む。

2023年3月末の進捗状況と評価及び次年度に向けた取り組み事項
評価は、○＝順調に進んでいる、△＝やや遅れている、×＝あまり進んでいない

大項目		小項目	実施項目	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当 会議	主担当 部門	協力 部門	1Q	2Q	3Q	4Q	KPI指標	目標値	KPI 数値 3月末	進捗状況	評価	次年度に向けた取り組み事項
長期経営計画			3)キャリア育成の充実による学生のモチベーションと卒業満足度の向上	⑦社会情勢の変化に合わせた就職支援プログラムにより、学生の将来像沿った就職先に就職できる支援を強化 ⑧就職力強化合宿や企業研究交流会などに、卒業生や企業担当者との交流の機会設定 ⑨長期インターンシップの延期などによる就職活動や卒業研究などの障害となり得る状況にある学生への個別支援等の配慮 ⑩学科向けの学生の希望に合ったインターンシップ先の新規開拓等	高橋	就職・インターンシップ委員会	学生課	各学科	⑦プログラム検討 ⑧日程等検討／企業との調整 ⑨個別対応 ⑩新規開拓	保護者会・セミナー 実施 見学会実施 情報公開	← 検証 →	← 実施 →	—	—		⑦社会情勢の変化に合わせて、就職支援プログラムの見直しを行った。就職活動が遅れる学生向けに就活攻略セミナーの開講を予定している。 ⑧企業研究交流会の開催日を調整し、次年度は独立したイベントとして実施予定。 ⑨インターンシップの実施時期が遅れた学生の対応を順次遂行し、残り数名の状況(留年確定学生のみ)。 ⑩継続的に新規開拓を行うとともに、情報系のインターンシップ先開拓を学科教員と連携して実施。	○ ○ ○ ○	⑦社会情勢を把握し、場合により、就職セミナーの講義内容の前倒しも検討。 ⑧就職力強化合宿の再開。 ⑨コロナの影響を受けた数名の学生の状況を把握し、不利益にならないよう配慮。 ⑩継続して情報系のインターンシップ先を開拓する。
				⑪就職活動の活動状況二極化に対応するため、教員との情報共有を密にし、個別支援の必要な学生の洗い出しなどを早期に対応できる方法を構築 ⑫個別企業見学会などを有効に活用し、就職意識の希薄な学生に対し、意識付けを行い、その後のフォロー体制を構築して個々に合った就職先に就職できるよう支援	高橋	就職・インターンシップ委員会	学生課	各学科	⑪就活未 状況調査 ⑫見学会検討・実施	内定者個別面談 教務長面談(仮)※状況による 個別支援 検証 検討	← 個別支援 →	← 検証 →	← 検討 →	—	—	⑪動き出しが遅れた学生への個別連絡、教員との連携を強化し、個々の状況把握に努めたため、例年より内定率の上昇が早期化した。 ⑫補助金などを有効活用し、例年以上に企業見学会を実施した。	○ ○	⑪⑫動き出しが遅れた学生への対応を強化。数名単位の工場見学会などを実施し、就職意識を高める取り組みを検討。
	(3) 志願者の質の確保と安定的定員の確保	1) アドミッション・ポリシーの明示と共有	①入試制度改革の推進 1) 受験生の多様化等の情勢、受験生の動向、文科省が示す方向性、指導要領の改訂等に対応した入試制度改革(入試内容の変更、新入試の追加、試験日程の検討、学内併願方法の周知など) 2) 受験機会の確保、手続きの簡易化、受験に関する優遇措置等、受験生の便宜を図ること、志願者増を企図する施策	高橋	入試委員会	入試課			準備・公表・周知 出願手続・入試実施・合否処理 分析・次年度計画				出願者数 入学者数	870名 300名	866名 221名	総合型選抜出願状況は前年並み 推薦入試及び外国人留学生入試は出願者が減少 次年度入試制度改革は入試委員会ですでに了済済	△	今年度入試状況の分析を踏まえ、3月に更新したアドミッションポリシーに合わせて入試種別を増設 受験会場の増設を行う
		2) 多様な入学試験の実施、学力の3要素をはじめ多面的な評価の推進																
		3) 高校生対象イベント、オープンキャンパス等の充実	②学生募集対策の充実 1) 受験生が直接大学を見る機会・イベントの充実(オープンキャンパス、進学相談会、大学見学会、参加者へのフォロー強化など) 2) 学外で受験生に直接説明する機会・イベントの充実(校内説明会、会場ガイダンス、資料頒布会など) 3) 非接触の受験生等への周知(業者名簿や模試データを活用した広報、DM・WEBの活用、交通・新聞等の不特定多数への広報など) 4) 女子対策(女子学生スタッフの活用、ガールズノート、実習体験教室、女子スカラシップ入試など) 5) 留学生対策(日本語学校フォロー、経済的支援の継続、留学生Webサイトの活用)	高橋	入試委員会	入試課	各学科	← 実施 分析・次年度計画	← 実施 分析・次年度計画	オープンキャンパス参加者数(高3) ガイダンス面談者数	400名 3000名	437名 4592名	オープンキャンパスは台風の影響があったものの、全ての回で来場対面型で開催 オープンキャンパス参加者へのフォロー強化 ガイダンスはコロナ以前にはまだ戻り切れていないが、順調に回復傾向	○	オープンキャンパスおよびガイダンスの参加者数は順調に回復していることを踏まえ 大学の魅力度向上と参加者への丁寧なフォローに努める また、コロナ後の留学生対策の強化に努める			
		4) 出身高校へのフィードバック、高大連携等の充実	③高校へのフィードバック、高大連携の充実 1) 高校訪問の充実(出身学生の状況報告、訪問地域の拡大と集中、本学への理解醸成など) 2) 高校教員対象説明会の実施 3) 培高進研情報交換会、千葉県工業系高大連携推進委員会等への参加 4) 高校生インターンシップの受入れ 5) 出前授業の実施	高橋	入試委員会	入試課	各学科	← 実施 分析・計画	← 実施 分析・計画	高校訪問件数	3000件	3273件	高校訪問数は順調な回復傾向にあるが、各高校が実施するバスでの大学見学や出前授業の依頼数はまだコロナ以前には戻っていない	○	高校訪問件数をコロナ前の数値に戻す			
	2. 特色ある研究・社会貢献活動	(1) 産学官金連携した教育・研究	1) 共同研究等の研究活性化とその支援	①各種展示会や支援団体のイベントでの大学及び産学官連携研究テーマのアピール ②地域・業界団体、企業訪問による個別広報活動	荒木	もの研運営委員会	もの研事務局	各学科	準備・展示会 準備・発表会等 展示会・総括	準備・発表会等 展示会・総括	← 展示会・総括 →	← 展示会・総括 →	展示会出展回数 企業等訪問回数 技術相談件数 共同研究等件数	2回 50回 70件 50件	2回 50回 56件 49件	建築再生展、彩の国BA 企業4回、金融4回、団体42回 情メカ21件、建設35件 共同6件、受託21件、奨励寄附22件	○ ○	建築再生展ほか3回 企業訪問実施 教員へ助成情報の提供 コロナの状況を踏まえ、精力的に企業訪問
			2) 就業者等社会人のための新たな教育の検討・実施	③研修内容等への多様な意見を踏まえ、製造関連、建設関連の各プログラムを実施 ④企業のニーズを把握するため強力にヒアリング等を拡大実施	荒木	もの研運営委員会	もの研事務局	広報係 学生支援係	← ニーズ把握・準備 実施 実施 →	← ニーズ把握・準備 実施 実施 →	← 実施 →	← 実施 →	社会人教育プログラム開講回数 企業等訪問回数(再掲)	2回 60回	1回 60回	現場で生かすドラッカーのマネジメント(受講者81名)開講 稼げる社会人教育事業への転換に係る基本設計、講座内容等の検討 企業14回、金融4回、団体42回	○ ○	社会人教育プログラム3講座、リベラルアーツ2講座 来年度の講座はほぼ決定 技術相談時にも意見聴取
			3) 科学研究費等の獲得支援	⑤セミナー等の実施やアドバイザーによるブラッシュアップなど年間を通じた学内での科研費獲得のための支援体制の構築	荒木	もの研運営委員会	もの研事務局	各学科	← (任意) セミナー・研修(集中) ブラッシュアップ(任意) →	← (任意) セミナー・研修(集中) ブラッシュアップ(任意) →	← ブラッシュアップ(任意) →	← ブラッシュアップ(任意) →	科研費申請件数	10件	12件	申請12件(ブラッシュアップのべ9名)	○	科研費アドバイザーによる申請書のブラッシュアップ
			4) 知的財産の創出及び適切な活用	⑥職務発明等の円滑な手続き支援及び出願費用予算の継続措置					← 随時 随時 →	← 随時 随時 →			特許出願件数	3件	2件	特許出願2件	△	教員への啓発
1) 子ども大学、公開講座、リカレント教育等の継続			①彩北未来プロジェクト及び三大学連携事業の実施(三大学合同研究発表会等) ②連携協定締結事業等の実施(子ども大学、公開講座 等) ③単発開催事業の実施(講演会、ものづくり教室 等)	大垣	地域連携推進・渉外室	広報・地域交流係		← 実施 分析 →	← 実施 分析 →	← 分析 →	← 分析 →	①実施数 ②・③満足度	①10件 ②80%	①13件 ②90%(おもしろものづくり教室) 92.5%(子ども大学ぎょうだ) 90%(公開講座)	①学園祭10者ブース、子ども大学5件(行田2、鴻巣1、羽生1、上尾1)、市民大学7件(行田5、鴻巣2) ②おもしろものづくり教室全5回の満足度90%、子ども大学ぎょうだの満足度92.5%、特別公開講座の満足度90%	○	私立大学等改革総合支援(タイプ3)獲得に向けた課題の整理と獲得計画の立案	
2) 大学見学会、大学開放・貸出しの継続			④ 大学見学会等新型コロナウイルスの状況をみつつ継続実施					← 実施 実施 →	← 実施 実施 →									
		3) 海外のものづくり人材育成プログラムの推進	(国際交流関係は、当面新規計画見送り)															

2022年度行動計画の実績報告について(2023年3月末)

【コンセプト】将来像を議論・明確化・共有
Vision Compass 2030から将来像と具体的な施策を作成し共有、一丸となり取り組む。

2023年3月末の進捗状況と評価及び次年度に向けた取り組み事項
評価は、○＝順調に進んでいる、△＝やや遅れている、×＝あまり進んでいない

中長期経営計画		2022年度行動計画項目														KPI 数値 3月末	進捗状況	評価	次年度に向けた取り組み事項
大項目	小項目	実施項目	具体的行動・実施事項	リーダー	主担当 会議	主担当 部門	協力 部門	1Q	2Q	3Q	4Q	KPI指標	目標値						
3. 大学運営基盤の強化	(1) 価値創造に向けた ブランド広報	1) 入学から卒業までのPR効果の高い情報を提供する大学広報の実現	①学生募集をサポートするデジタルコンテンツの整理と強化 ・SNSの求心力を有効活用 ・Webサイトの改善(大学サイトとは別に高校生・受験生応援サイトを開設) ・SNSの効果的配信(最適なタイミングで効果的な配信を学内に共有)	大垣	広報委員会	広報・地域交流係	入試課	←	提案および実施 分析		分析	①提案件数 実施件数	①提案5件 実施3件	①提案15件 実施5件(学生募集)その他10件	各課よりの依頼を受けて、デザイン及び構成を提案した。学生募集以外では、もの研(2件)、学生課(1件)、教務(5件)、教養教育センター(1件) monogram公開	○	WEBサイトの各ページの効果的見せ方の研究と実践		
			②定期的配信と報道機関との良好な関係を構築	大垣	広報委員会	広報・地域交流係	入試課	←	実施		分析	②配信数	②30件	②65件	プレスセンター15件、プレスリリース4件、メルマガ46件	○	・ニュースやイベント時のリリース発信 ・メルマガ配信先の増加施策の検討		
			③全教職員広報戦略の取組み 学内広報に向けた計画・立案および周知活動 ④学外広報に向けた計画・立案および周知活動	大垣	広報委員会	広報・地域交流係		←	課題洗い出しおよび実施			③研修会開催数 ④配信数(9つのPJ+大会)	③2回 ④45件	③0回 ④126件	③未実施 ④WEBサイト19、Instagram4、Twitter70、Facebook33	△	両学科からの情報提供を促し、デジタルメディアで発信		
		2) ブランド展開のための広報手法の開発	⑤Webサイトの運営と改善 ⑥SNS運用と改善 ⑦サイトへの集客施策実施	大垣	広報委員会	広報・地域交流係		←	実施		分析	⑤HP新着数 ⑥SNS新着数 ⑦HP訪問数	⑤300件 ⑥800件 ⑦48万件	⑤255件 ⑥588件 ⑦40万件	⑥Instagram54、Twitter362、Facebook169、TikTok3 ⑦monogramリリース後に訪問数が増加	△	WEBサイト、SNS等のメディアの運営と改善		
			3) Webサイト、SNS等のデジタルメディアをメインとした広報活動の拡充	①組織目標の合意形成・決定手法の確立 1) わかり易い将来像の提示 2) ロードマップの作成 3) 全教職員一丸となった取組(若手教職員のリードも必要)	大島(小塚)	経営戦略会議	総務課	全学	←	将来像検討		共有				・2030の具体的展開に着手 ・今年度の教員のティーチング・ポートフォリオに行動目標としての記述を導入	△	・2030の将来像を踏まえた第3次 中長期経営計画の策定を行う (中長期計画部会)	
				2) 教員・職員の業績評価の確立及び適正な運用 3) 働き方改革への取組	大島(小塚)	経営戦略会議	総務課	全学	←	課題洗い出し デジタル活用事例検討	→	提案				1)会議等におけるペーパーレス化は進行中 3)事務支援システムの更新に向けて取組中	△	新情報システムとの連携等業務改善の提案を行うなど組織力の強化を図る(自己点検評価室)	
		4) SD・FD・FSD等、教職員の研修体制の整備、向上 5) 中長期経営計画の年度行動計画の策定と内部質保証に向けたPDCA体制の確立 6) ガバナンス・コードの周知、認証評価受審準備	③自己評価による運営力強化の取組み 1) 2022年度の自己点検評価書による認証評価の受審とその結果の次期計画への反映 2) 次の時代を見据えた課題に対応するFSDの推進	大島(小塚)	自己点検評価室	総務課	全学	←	認証評価・受審		行動計画へ フィードバック				1)認証評価は、10月20～21日に実地調査。12～2月に評価原案への意見表明。3月に評価結果が確定 2)FSD研修会を4回実施(情報セキュリティ下記⑤を含む)	○	1)認証評価は「適合」となったが、一部改善を要する点がありそれへの対応が次年度の課題。 2)FSDは今年度の積み残し課題を次年度に実施予定。		
			(3) 持続可能な財務力と 施設の向上	1) 学納金及び補助金の確保、寄付金収入の受入増	①寄付募集の展開／FANをつくる活動 1) 学納金を確保のため、入学者の確保に向けた戦略をサポート 2) 補助金の確保のため、改革総合のタイプ1を取りに行く戦略を検討する。 3) 寄付募集の充実展開によるファン＆サポーターを作る取組み 4) 現物寄付についての戦略を立案する。	大島	経営戦略会議	総務課	広報係	←	1)2)戦略サポート						1)3-(1)-1)に掲載 2)補助金獲得に向け、教職員の協力を仰ぐため、会議にて影響等重要性を説明 3)寄付者に対して、2021年度開学20周年記念事業募金事業報告、ものづくり大学通信の他、イベントの案内を送付、関係継続 4)現物寄付について、大学を支援する団体へ依頼、支援の回答待ち	△	1)3-(1)-1)に掲載 2)補助金対応は、タイプ1の各欄積み増しと共に、タイプ3にチャレンジ 3)新規寄付獲得と既寄付者との良好な関係づくりを実施 4)現物寄付の推進も課題
					②施設・設備の更新・整備費を踏まえた財務戦略の立案 ・黒字の継続達成に向けた財務戦略の継続実施	大塚	財務マネジメント室	総務課		←	財務方針 立案・共有	→	振返り				・黒字化に向けた予算の検討、執行管理を実施。 ・次年度予算で大型設備更新の実施を予定。	○	・黒字化に向けた新たな予算編成方針(支出削減案)の検討。
		3) 施設・設備修繕の中長期計画の策定・実行		③施設・設備の更新・整備戦略・費用の検討、体制整備 1) キャンパス整備マスタープラン2040の策定への取組み開始 2) 研究設備マスタープラン2040の策定への取組み開始	三原	施設設備計画部会	総務課もの研		←	調査	(案)検討	ヒアリング	プラン作成		1)策定終了	1)キャンパス整備MP2040に基づき、次年度予算案を申請済。施設整備補助金対応工事についても申請済。(施設係)	1)○	1)補助金獲得の検討と情報収集を実施。財務Mと連携し施設整備費の支出抑制。	
				④情報システムの検討(システムスペックの向上と大幅なコストダウン)の検討と実施 1) 事務支援システムの検討 2) ネットワークシステムの検討 3) 学内映像システムの検討	三井	情報環境整備WG	情報係	施設係	←	1)事務支援システムの更新検討・方針決定 2)ネットワークシステムの更新検討 3)学内映像システムの更新検討	→		情報システムの見直しによるコストダウン	2025年度までに 総額 ▲155,000千円		1)事務支援システムの契約および移行準備 2)ネットワークシステム更新案決定	○	1)事務支援システムの移行 2)ネットワークシステムの契約 3)講義室等の音響映像システムの検討	
				4) 防災・危機管理・法令順守のための体制の整備拡充	⑤危機管理体制整備と強化(水災・感染症・情報セキュリティ等)	大島	危機管理委員会	総務課	全学	←	企画	訓練	振返り				・情報セキュリティに関するFSDを実施 ・危険物の点検及び高圧ガス安全講習を実施 ・救急救命(AED)講習会を実施 ・危機管理マニュアルの見直しの実施	○	・危機管理マニュアルの見直しを踏まえた訓練の企画・実施 ・情報セキュリティFSDを実施 ・救急救命(AED)講習会の企画